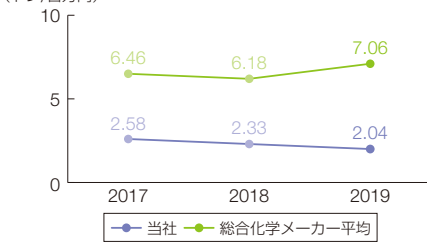


経営資源

経営資源	経営資源																																																																		
	人的資本	知的資本	財務資本																																																																
価値創造との関連	●当社が「未来創造企業」として成長し、社会に貢献するには、多様な人材が目標に向かって挑戦し、自己の成長を図ることが不可欠です。 ●そのため、多様な人材が協働しながら、イノベティブに挑戦を楽しむことができる組織文化醸成を目指し、教育制度の充実化や女性活躍の推進など、各種取り組みを進めています。	●研究開発は、新たな技術や製品を生み出す原動力です。 ●「精密有機合成」「機能性高分子設計」「微粒子制御」「生物評価」「光制御」の5つのコア技術をもとに、全く新しい技術や製品を生み出すことに挑戦し続けていきます。	●財務資本は事業活動を行ううえで不可欠です。 ●自己資本比率は70%を超えており、財務の安定性は十分確保されています。キャッシュフローは非常に恵まれた状態にあり、投資や株主還元などに、必要に応じて引き続き活用できる状況にあります。																																																																
特長	●総合職の約40%が研究開発要員(単体ベース)となっており、研究開発に力を入れた人員構成となっています。 ●当社では、従業員のエンゲージメント(仕事への熱意や姿勢)について、外部専門企業作成の従業員アンケートで調査を実施しています。偏差値60以上を高エンゲージメント者と判定していますが、外部専門企業による調査企業平均を上回る結果となっています。 総合職の職域比率 <table><tr><th>職域</th><th>比率</th></tr><tr><td>研究開発要員</td><td>39%</td></tr><tr><td>製造・製造検討要員</td><td>29%</td></tr><tr><td>営業・マーケティング要員</td><td>17%</td></tr><tr><td>管理部門</td><td>15%</td></tr></table> *2021年3月 単体ベース 高エンゲージメント者割合 <table><tr><th>年</th><th>日産化学 (%)</th><th>他社平均* (%)</th></tr><tr><td>2016</td><td>13.5</td><td>12.0</td></tr><tr><td>2017</td><td>15.1</td><td>10.5</td></tr><tr><td>2018</td><td>15.2</td><td>10.6</td></tr><tr><td>2019</td><td>14.9</td><td>10.4</td></tr><tr><td>2020</td><td>17.0</td><td>10.5</td></tr></table> *業界不問	職域	比率	研究開発要員	39%	製造・製造検討要員	29%	営業・マーケティング要員	17%	管理部門	15%	年	日産化学 (%)	他社平均* (%)	2016	13.5	12.0	2017	15.1	10.5	2018	15.2	10.6	2019	14.9	10.4	2020	17.0	10.5	●売上高研究開発費比率について、数ある化学メーカーのなかでも常にトップ水準にあります。 ●研究開発の成果は、売上高営業利益率に表れています。付加価値の高い事業に注力することにより、18年連続で10%以上を維持しています。この高い利益率が、次の研究開発につながっています。 売上高研究開発費比率 <table><tr><th>年</th><th>売上高研究開発費比率 (%)</th></tr><tr><td>2016</td><td>8.9</td></tr><tr><td>2017</td><td>8.9</td></tr><tr><td>2018</td><td>8.7</td></tr><tr><td>2019</td><td>8.3</td></tr><tr><td>2020</td><td>7.9</td></tr></table> 当社グループは研究開発を成長の源泉と捉え、経営資源を集中的に投下しています。	年	売上高研究開発費比率 (%)	2016	8.9	2017	8.9	2018	8.7	2019	8.3	2020	7.9	●資本効率についてはROEを重視しており、2011年度に9.5%を記録して以降、ずっと右肩上がりを続けています。 ●株主総還元性向は、2015年度以降は70%台で推移しており、高水準にあります。 ●配当と自己株式取得を合わせた株主の皆様への積極的な利益還元の姿勢が、長期資金を呼び込み、株主資本の充実に寄与しています。 総還元性向(他社との比較) <table><tr><th>年</th><th>当社総還元性向 (%)</th><th>総合化学メーカー総還元性向平均 (%)</th></tr><tr><td>2014</td><td>64</td><td>23</td></tr><tr><td>2015</td><td>71</td><td>23</td></tr><tr><td>2016</td><td>70</td><td>24</td></tr><tr><td>2017</td><td>71</td><td>23</td></tr><tr><td>2018</td><td>72</td><td>35</td></tr><tr><td>2019</td><td>75</td><td></td></tr><tr><td>2020</td><td>75</td><td></td></tr></table>	年	当社総還元性向 (%)	総合化学メーカー総還元性向平均 (%)	2014	64	23	2015	71	23	2016	70	24	2017	71	23	2018	72	35	2019	75		2020	75	
	職域	比率																																																																	
研究開発要員	39%																																																																		
製造・製造検討要員	29%																																																																		
営業・マーケティング要員	17%																																																																		
管理部門	15%																																																																		
年	日産化学 (%)	他社平均* (%)																																																																	
2016	13.5	12.0																																																																	
2017	15.1	10.5																																																																	
2018	15.2	10.6																																																																	
2019	14.9	10.4																																																																	
2020	17.0	10.5																																																																	
年	売上高研究開発費比率 (%)																																																																		
2016	8.9																																																																		
2017	8.9																																																																		
2018	8.7																																																																		
2019	8.3																																																																		
2020	7.9																																																																		
年	当社総還元性向 (%)	総合化学メーカー総還元性向平均 (%)																																																																	
2014	64	23																																																																	
2015	71	23																																																																	
2016	70	24																																																																	
2017	71	23																																																																	
2018	72	35																																																																	
2019	75																																																																		
2020	75																																																																		
関連情報	「自社の事業基盤の強化」P53～P54 「人材の確保・育成」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/communication/employee/system.html 「ダイバーシティの推進」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/communication/employee/respect.html 「従業員の健康維持向上」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/communication/employee/workplace.html 「働きやすい職場づくり」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/communication/employee/dialogue.html	「研究開発」P49～P52	「CFOメッセージ」P11～P14 「財務情報」P75～P82																																																																

 製造資本	 社会関係資本	 自然資本												
- 国内5県に広がる工場には、化学遺産に認定された石造りの設備が残っている一方で、最新鋭の機器・設備が着々と導入され続けています。 130年以上の歴史を積み重ねながら、今もなお進化を続け、製品の安定生産に努めています。	地域社会やNPO／NGOなどの多様なステークホルダーと長期にわたり培ってきた信頼関係は、事業活動を支える基礎となっています。	- 製品を製造するうえで、エネルギー・水・原料の利用や、温室効果ガス排出などの環境負荷を避けることは困難です。 2021年度までのレスポンス・ケア中期計画や2030年度までに温室効果ガス排出量を2018年度比30%削減するという長期目標のもと、当社は、「環境・安全・健康」に配慮するレスポンス・ケア活動を通じて、環境負荷低減に努めています。												
- 袖ヶ浦工場(千葉県)は、研究所と緊密に連携した“開発型工場”です。情報電子産業をはじめとした幅広い分野で使用される無機材料やディスプレイ材料の技術開発・生産を行うスペシャリティケミカルズの中核工場です。 - 埼玉工場(埼玉県)は、埼玉県北西部の自然豊かな環境にあり、水稲用除草剤および殺虫剤・殺菌剤を生産し、国内をはじめ世界の農業に貢献しています。 - 富山工場(富山県)は、豊富な水と電力を背景に、日本有数のアンモニア総合化学工場として発展し、現在でも多くの誘導品の製造をしています。また、近年では電子材料分野へも進出し、世界の半導体産業・IT技術の進歩に大きく貢献しています。研究機能も併設しており、次世代に向けた迅速な対応が可能です。 - 名古屋工場(愛知県)は、名古屋港に面し、硫酸の製造を中心に発展し、時代のニーズに対応して工業用から半導体洗浄用高品位グレードまで製品展開を図ってきました。現在は、重亜硫酸ソーダ、「アドブルー®」なども生産しています。 - 小野田工場(山口県)は、1910年に日本で初めて農薬を製造した130年以上の歴史を有する工場です。現在は殺虫剤・殺ダニ剤・除草剤などの農薬や、高脂血症治療剤などの医薬、動物薬、有機ファインケミカル製品を生産しています。	当社グループの拠点を社会貢献の基盤として、「教育・学術・文化の振興」「地域貢献」「地球環境保護」「健康福祉の増進とスポーツ振興」の4つに重点を置き、企業市民としてさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。  夏のリコチャレ(理工チャレンジ)  小野田工場 桜まつり  日産バイオパーク西本郷見学会  藤前干潟クリーン大作戦 *新型コロナウイルス拡大により、「夏のリコチャレ」、「桜まつり」、「日産バイオパーク西本郷見学会」については2020年度未実施	- 富山工場での重油から天然ガスへの燃料転換や、当社を含む県内企業の出資により設立された富山共同自家発電(株)による水力発電の活用など、これまで行ってきた低炭素投資や製品特性により、当社は化学業界において炭素効率性(温室効果ガス排出量原単位)が相対的に高い状況です。 - 気候変動への取り組みに対する投資家などからの要請の高まりが、追い風となると認識しています。 炭素効率性(温室効果ガス排出量原単位) (トン/百万円)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>当社</th> <th>総合化学メーカー平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017</td> <td>2.58</td> <td>6.46</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>2.33</td> <td>6.18</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>2.04</td> <td>7.06</td> </tr> </tbody> </table>  見座発電所	年次	当社	総合化学メーカー平均	2017	2.58	6.46	2018	2.33	6.18	2019	2.04	7.06
年次	当社	総合化学メーカー平均												
2017	2.58	6.46												
2018	2.33	6.18												
2019	2.04	7.06												
「会社情報」P83～P86	「地域社会への貢献」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/communication/community.html 「生物多様性への取り組み」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/conservation.html	「レスポンス・ケア活動の継続的強化」P55～P56 「レスポンス・ケアマネジメント」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/management.html 「気候変動の緩和」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/reduction.html 「産業廃棄物・汚染物質の排出削減」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/management.html 「化学物質の管理」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/chemical.html 「水資源の保全」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/effective.html 「生物多様性への取り組み」 https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/conservation.html												